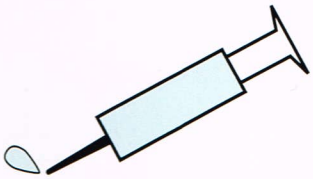
動物園の『獣医のお仕事』

その1　朝の見まわり

朝，まずはじめに園内の動物たちを見てまわります。トラもどうしたんだろう？という表情で見ています。

毎日動物たちを観察していれば，病気になったり怪我をしている時に，普段とは様子が違うことに気付くことができます。見まわりのときは，特に動物が苦しそうにしていないか，歩き方，ウンチの状態，餌の食べ具合などに異常がないかを確認します。毎日顔をあわせていると，最初は警戒していた動物も，次第にリラックスした表情を見せてくれます。

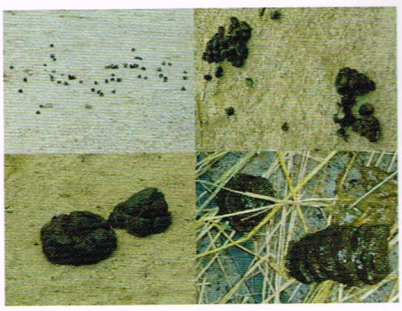
その2　治療

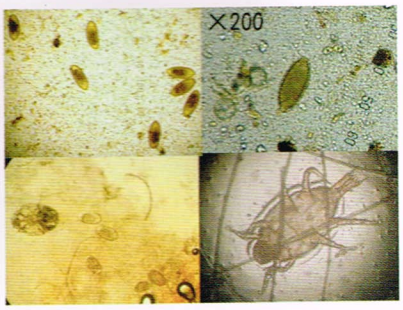


治療は小さい動物に関しては動物園の中の病院で行いますが，ゾウやトラなど体の大きい動物は，動物舎の中で治療を行います。病院の中央には動物をのせる台があります。その周りには動物を治療するための機械や道具があります。

右の写真は，レッサーパンダを治療しているところです。この個体は，ひどいむし歯で餌を食べられない状態になっていました。むし歯を抜くための治療を行いましたが，痛くないように麻酔をかけて行いました。治療後，すぐには体調が回復しなかったため，1ヶ月ほど展示をお休みしましたが，その後元気な姿を見せてくれています。

その3　検査





動物たちの血液やウンチなども健康状態を見るバロメーターになります。血液は機械を使って検査します。

顕微鏡などの道具を使うことで，血液やウンチをじっくり調べることができます。その他にも，動物の体についているノミやダニなども見ることができます。

その4　アカゲザルの健康診断

毎年，秋に全頭を捕獲し，健康診断を行います。健康診断では体重測定，結核の検査（ツベルクリン検査），駆虫薬（寄生虫を駆除する薬）の注射を全頭に行い，必要な個体には血液検査も行います。また，飼育管理のための個体識別処置（入れ墨やマイクロチップの挿入・確認），繁殖抑制用のホルモン剤の挿入（インプラント）などを行います。

その5　解剖・標本作製

動物園では貴重な動物をたくさん飼育・展示しています。命ある動物を飼育している限り，必ず死はやってきます。死んだ動物たちがなぜ亡くなったのかを調べるために，解剖を行います。動物が亡くなった後の骨や皮や臓器も大変貴重なものです。臓器は死亡原因を調査するだけでなく，大学などで研究に用いられます。また，骨や皮は来園者の方に動物の違いや大きさ・触感を体験していただくために骨格標本や皮革標本として活用しています。

その6　教育普及活動

動物達の治療だけでなく，普段はおとぎの国を中心として，「なかよし教室」などの授業を行っています。人と動物がなかよく暮らせる社会を目指して，動物への接し方，触り方，動物の観察の仕方などを説明し，実際に動物に触れてもらう体験型の授業です。

その他にも，動物園の夏の一大イベントである小学生サマースクールと中学生動物園教室を行っています。毎年多くの児童に参加していただいていますが，参加者に少しでも楽しんで，様々なことを勉強・体験してもらえるように，教育普及担当や獣医師が中心となって企画運営を行っています。

今回は動物園獣医師の仕事の紹介をさせていただきましたが，実際働いてみて，仕事の幅広さを感じています。

例えば診療では，カエルなどの両生類からトラなどの大型哺乳類まで，実に様々な動物を診なければなりませんし，教育普及活動では，幼稚園児や小学生の笑いのツボを押さえ，楽しく学んでもらわなければなりません。こうしたことも最初は悩むばかりで大変でしたが，やはり動物の病気が治ったとき，子供達が動物の話しを笑顔で聞いてくれているとき，何物にも代え難いやりがいを感じます。これからも日々勉強しながら頑張りますので，よろしくお願いします。